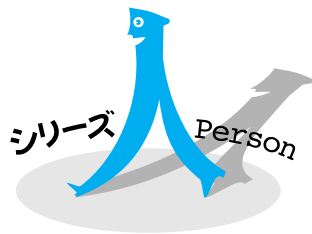




大学時代に始め現在も続けているカメラは玄人はだしの腕前。
「社会人講師として生徒に教えることがあるかもしれませんがね」

中高一貫校・御所野学院の校長

しば た よし ひろ
柴田 義弘さん(52歳)



「ゆとりと個性 自己表現」の力を養う

選抜学力検査なしで中学校と高校を結び、六年間の見通しを持った学びの場を提供しようとする御所野学院。去年の四月に中学校が、この四月に高等学校が開校し、待望の中高一貫教育がスタートしました。御所野学院の校長に就任した柴田

義弘さん。新しい船出となる学院の舵取り役としてその手腕に期待がかかります。「公立の中高一貫校はいくつかありますが、全日制普通科の併設型は秋田市が全国で初めて。秋田市としても勇気がいったことだと思います。学力偏重でない

新しい学校のあり方を実現し、教育改革の先鞭をつけるようがんばりたい。」

一貫校は、六年間を通じたゆとりの中で、選択科目の拡大「郷土総合学習」表現科の導入、体験活動の充実、六十五分授業の採用など多くの特色があります。

「生徒には、自分が何を学びたいか、将来何をしたいか、自分の考えをしつかり持つてほしい。そして、他人に対し、自分を表現し主張するという、自己表現の能力を身につけてほしい。」

「六十五分授業も一方的な講義だけの授業ではもちろん。進め方に工夫が必要となります。しばらくは試行錯誤が続くと思いますが、生徒が主体的に勉強できるようチャレンジしたい。」

にこやかな笑顔を見せつつ話す表情には、これから新しい学校を、新しい歴史を創っていくことへの喜びと自信が感じられます。

「イスに座っているのは、性に合いません。どんどん、生徒たちの中に入っていきます」と話す校長の目は、新入生のように輝いていました。

全市一斉清掃 リフレッシュin秋田

各町内のみなさん、4月16日(日)の全市一斉清掃、たいへんお疲れさまでした。

隣近所の人たちが力を合わせ、早朝から地域の公園や道路のごみ拾い、側溝のどろあげなどをする光景が、市内いたるところ

お疲れさまでした

で見られました。

仁井田堅町町内会でも、この日は町内総出で大掃除。集めた土砂や汚泥は、土のう袋で300袋にもなりました。

桜の季節には、やっぱりきれいな街が似合いますね。



一生懸命側溝のどろあげをする仁井田堅町町内会のかたがた